

# 結

ゆい

1999年6月23日「男女共同参画基本法」という社会政策が始まった。共同参画って何？社会の生産活動に男女が共同で参画する、つまりどちらも働くということだ。昭和の日本社会では男性労働者は妻を養うだけの賃金を受け取っていたけれども平成の時代には妻を養える賃金を支払うつもりはないのでどちらも働いてくださいと。日本語を正直に読めば、男女が共同参画することと、その人たちが平等に扱われることとは字義として直接関係ない。共同参画社会の実現という目標は今から思えば、トンデモの官製フェミニズムだ。「男女平等法」もない「性差別禁止法」もない議論さえされない。内閣府の「男女共同参画」の英語表記は gender equality だそう。日本政府は共同参画社会がジェンダー平等社会だとぬけぬけと表明している。「どちらも働く」ということと「平等」ということとは違う次元に属するのに。なるほどね。男女平等指数の国際順位を日本が下げ続けているのは、この社会政策のせいに違いない。

私たちは「女性活躍」という政府のキラキラワードに翻弄され続けている (たかだ 洋子)

2020年7月7日 発行：ユニオンと連帯する市民の会 「結」編集委員会

第21号



関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会第2回総会で挨拶する石田好江共同代表(2020.6.21)  
総会には85名が参加した。

### 新型コロナと闘う

- ・名古屋市保健センターからの報告 ..... 2 近森 泰彦
- ・労働・生活総合ホットライン ..... 3 鶴丸周一郎
- ・手作りマスク、頑張って送りました ..... 4 花柳 志保
- ・三権分立を守れ！「廃案」まで闘う！ ..... 4 水野 桂
- ・コロナに罹患した医療労働者・積極的に労災申請を ..... 5 鈴木 明男
- ・パンデミック下での偏見・差別の現在と歴史的背景 ..... 6 小野 政美

- 近藤 進さん安らかに..... 8 近森 泰彦
- 私の注目するアメリカ ..... 9 たかだ洋子
- なぜ女性ユニオンが必要なのか ..... 10 石田 好江

告知欄：7月のユニオン学校のご案内

- ユニオンと連帯する市民の会第13回総会開催報告..... 12 植木日出男
- 共謀罪と労働運動(四) ..... 15 木村 直樹
- ユニオン学校6月「河田昌東さんのお話」報告 ..... 16 櫻井 善行

# 新型コロナと闘う

## ・新型コロナと向き合った名古屋市保健センター

聞き取り：近森 泰彦

人口220万人を超える名古屋市で、最初のコロナ感染者が発生した熱田区保健センター保健師、塩川さんにお話を伺いました。(5月28日、健康センター事務所)

塩川さんは勤続35年目のベテラン保健師、愛労連副議長を務められた人望あついです。コロナからやっと一息つかれた折に足を運んでいただきました。

## 業務分担制を拒否し地域担当制を守り続けた名古屋方式

名古屋市は現在1保健所(本庁内)と16支所(区ごとに設置。熱田区の場合、所員50人ほど)という陣容で保健センターを維持してきました。政府は1994年ごろから強引に保健所削減、病院統合・削減(民営化)を強行、名古屋ではこの方針に抵抗して労働組合内で保健婦が中心となり「保健所をなくされては困る市民の会」を立ち上げ市民運動によって保健所削減を最小限にとどめさせてきました。この「成果」が今回のコロナとのたたかいで如何なく発揮されたと現場で評

価しています。保健師の仕事は全国的に見ると「合理化」によって縮小され「業務分担制」が主流にされていくなか、名古屋市では運動によって小学校区単位で「地域担当制」を守り続けてきました。これによって日常的に乳幼児から高齢者まで、また結核、難病、精神、老人対応など地域担当保健師が家庭訪問を中心にした活動によって地域の守り手として住民の健康管理に努めてきました。この「名古屋方式・地域担当制」が今回のコロナ対応で大きな力を発揮したと思っています。

保健センターにかかってくる電話は鳴りやまず、

他部署から多くの応援者を得て対応まさに総力戦

熱田区で市内最初の感染者(スポーツジム)が発生、保健師が直ちに接触感染者のフォロー(行動調査)を始めました。この調査で日頃のつながりが大いに生かされたと思っています。接触感染者に電話(直接面談することができない)で話を聴くこととなりますが殆どの方が私たち保健師の質問(チェックリストによる)に正直に真摯に答えてくれました。一人の発症者にたいし調査は濃厚接触者(次に感染する可能性が高い者)100人に及んだこともあります。この調査で平時の活動があらわれたと思いました。

全国的に見ると保健師は業務分担制担当制(感染症対策、乳幼児健診、精神保健、難病、介護など縦割り分担)が主流となってい

て、この業務分担制では一人の保健師が日常的に住民と生活レベルで直に触れ合うことがほとんどありません。これにたいして名古屋では保健師の「小学校区毎の地域担当」を守ってきたので日頃から住民と触れ合う機会が多く信頼関係がきづかれて身近な存在であったことが大いに活かされたと思っています。また、日頃から感染症対策にも携わっているため、今回フォロー調査で各区の保健師が同じ方向で対応できたことで、人数不足で行き詰ったことはありませんでした。



(残念なことでしたが愛知県の調査票が間違っていて漏れてしまう事件がありました。この調査票できめ細かな聞き取りの様子が世間

に伝わり「けがの功名」となりました)「そんなことまで」と思うことも多くの方が話してくれました。地元愛の強い保守的な住民と

いう一面もあるかと思いますが、日頃からつくってきた住民のかたがたとの信頼関係の現れだと思っています。この保健所に対する信頼を「名古屋の保守的なところ」などと決めつけてしまうのはいかがなものかと思っています。東京などでは電話に出てもらえな

いケースがかなりあったと聞いていますし、感染症担当の保健師だけでは数が足りず調査が行き詰ってしまうケースがあったようです。保健センターにかかってくる電話は鳴りやまずまさに戦場、他部署から多くの応援者を得て対応しました。まさに総力戦でした。

## 今後のフォロー体制を整え、次の来襲への備えに入っている

今は（5月下旬）おさまってきましたが次の来襲は確実ですのでその備えにはいっているところです。ところでこの間、一番困難な仕事を担ってきたのは患者の搬送、検体搬送に携わった方です。運転者と看護師の患者搬送チームは感染の危険にさらされながら職務を全うされました。搬送には特別仕様の車が必要ですが名古屋には1台しかありません。その強化と合わせてタクシー会社とも契約を結び今後のフォロー体制を整えています。

検体搬送、病院から衛生研究所まで市内を

横断、縦断して当初は各保健センターの職員が担っていました。人と時間を取られる仕事でしたが現在は本庁に検体回収班が配置されその任にあたっています。

PCR検査も拡充されてきて名古屋市衛生研究所、PCR検査所、その他いくつかの医療機関、大学病院、医師会、民間検査などで行われるようになりました。

憲法25条に規定された保健所の活動は健康センターのボランティア活動とも結び付くところが大いにあります。連携した取り組みが生まれることをねがっています。

## ・新型コロナ労働・生活総合ホットライン

鶴丸 周一郎

2020年5月2日（土）～3日（日）、労働問題・生活困窮者の支援に取り組むNPOや弁護士などを中心に、「新型コロナ労働・生活総合ホットライン」（生存のためのコロナ対策ネットワーク主催）が開催されました。名古屋ふれあいユニオンと反貧困ネットワークあいちのメンバーも当労組事務所でこの活動に参加（2日のみ）したのでご報告します。

相談件数は計11件。労働相談では「コールセンター、公務職場（非正規）の3密問題」や「休業時の賃金補償」などの相談がありました。また、生活相談では「生活保護受給中、10万円の給付金は受け取れるか（受け取れる）」や、「仮放免中、10万円は受け取れないのか（住民基本台帳に載っていないため受け取れない）」など、切迫した状況を映し出す相談が寄せられました。

ネットワークでは、このホットラインの結

果を受け5月12日に記者会見を開催。全国で300件を超える相談が寄せられており、事態の深刻さが浮き彫りとなりました。

また、相談者の中にはすでに労働組合へ加入し一定の解決が図られた事例もあり、労働組合の存在意義がクローズアップされています。

今年3月以降、当労組に寄せられる相談件数は例年に比べ明らかに増えており（昨年同時期の約2倍）、新型コロナに関連するものも多く、社会全体の状況を如実に表しています。今後も組織の枠にこだわらず、労働者の生活を守るたたかいを広げていかなければなりません。

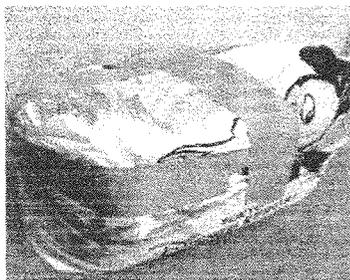


## ・手作りマスク、頑張って送りました

花柳 志保

私は、「ユニオンと連帯する市民の会」や「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」に参加させていただいております、名古屋ふれあいユニオンの組合員の花柳志保と申します。

この度、市民団体や労働組合へ、手作りマスク 500 余枚の支援をさせていただき、そのことについて、『結』に原稿を書いてくださいというお申し出を受けました。



もともと私が手作りマスクを作り出したのは、「集会や大会にいらっしゃる方々で、マスクをお持ちの方々に、感染予防でマスクをしていただく」という目的からでした。

ところが、あまりにもマスク不足が続き、活動家の方々にさえも、マスクが手に入らないと言う状況が続きました。

ネット上では、マスクが何千円、何万円という恐ろしい価格に高騰しました。

私の頭の中には、「マスクをなるべく安く作って、早く送らなければ！！」という使命

感が湧き、その日から、毎日 20 枚から 40 枚をめどにコツコツ作り始めました。

まずは、関西生コン労組に 350 枚を、送りました。

次に、ホームレスの方々の生活支援をしている、NPO 法人ささしまサポートセンターの方々に 150 枚の手作りマスクを送り、その後、自分の加盟している名古屋ふれあいユニオンへ 50 枚の手作りマスクを持って行きました。

本当は、お金をもらうつもりはなくて、全て寄付しようと思っていたのですが、「ユニオンと連帯する市民の会」の皆様が支援している「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」から、材料費をいただけることになり、同じく、名古屋ふれあいユニオンからも、お代をいただきました。

それにしても今日は 5 月 15 日なのですが、まだ政府からのマスク 2 枚も届いておらず、なんてことよと嘆いています。

これからも皆様と共に励ましあいながら、心のこもった温かな交流をさせていただきたいと思っています。

## ・三権分立を守れ！「廃案」まで闘う！

東海民衆センター・水野 桂

「結」読者の皆さん、私は「東海民衆センター」の水野桂と申します、初めて投稿をさせていただきます。元来私は文章を書くのは苦手で、かつ理論的でもありません。感性のまま書く傾向があり読みにくいと思いますがその点はご了承ください。

5 月 17 日、冒頭の街宣活動を東海民衆センターが呼び掛ける形で名古屋市栄に於いて行いました。緊急にもかかわらず多くの方に参加していただきリレートーク、勇気を与えてくれる歌もあり、盛り上がり、市民もこの

問題には関心あるようでした。

安倍政権はこれまで違憲の閣議決定を強行裁決で押切ってきました。「特定秘密保護法」「武器輸出 3 原則の撤廃」「盗聴法の改悪」「カジノ法案」「共謀罪」「新安保法」等々成立させました。閣議決定が憲法を凌駕するナチスの手法をまねた独裁政権です。これ以外にはモリカケ問題、桜を見る会はまさに政治の私物化、そして今回は自分の意になる検察を作りたくて「検察庁法改悪」を意図しています。

ロッキード疑惑で現職の田中角栄が逮捕されたように検察は政治の意向を受けないものでなくてはなりません。勿論検察と言えども国家の暴力装置ですから全面的に信頼するものではありません。

安倍首相はこの世の春と独裁的に振る舞い、国民の民意は無視し遮二無二に戦争政策を遂行しています。(典型的には辺野古の埋め立ての強行、高江のヘリパット、イジースアショア、巡行ミサイル)

その為にあらゆる分野で安倍首相の意になる者を登用しています、NHK会長、日銀総裁、今回の検事総長への黒川氏の就任策動等です、新型コロナウイルス騒動の陰に乗じて「火事場泥棒的に」進めてきたのに 1000万を超える抗議声明が出ました。これだけ国民が政治的に反応をすることは安倍自身も思ってもみなかったでしょ。いつもの様に強行採決をしても直ぐに忘れるだろうと・・・計算違いが生じたようです。このこともあって支持率は急降下し 33%と政権維持の危険水域とわれる 30%に限りなく近づいています。公明党もこの事態に危機感を感じています。

昨日(18日)安倍首相は自民党の二階幹事長と会談し「国民の理解なく進めることはできない」「今国会での採決は行わないが次の

臨時国会での成立を行う」と発言しました、「法案成立」を諦めたわけでは決してありません。



この問題を詰められると、安倍首相は「法務省」が言いだして私は認めただけとまたもや「自己保身」の嘘を並べています。「笑止千万」です。こんな政権は直ちに打倒すべきです。黒川氏は「カケ麻雀」を口実に「訓告」処分で多額の退職金を手にして退官を決心したようです。黒川氏が総長に就任しなくても安倍政権はいつでも自分の身を守ってくれる検察を作るために「法案」の成立を画策するでしょ。第2第3の黒川氏を作ればいいんですから。

私達は「廃案」に追い込むまで周りの人たちに呼びかけ活動を続けます、街宣は17日、19日、21日、23日です、事態を見守りながら必要と思ったら又継続して行います。

「結」読者の皆さん、意識ある市民と手を繋ぎ安倍政権打倒まで頑張りましょう。

東海民衆センターも先頭に立って全力で闘う決意です。

## ・コロナに罹患した医療労働者への労災不認定の問題 直ちに行動しました！！

鈴木 明男 (愛知働くもののいのちと健康を守るセンター事務局長)

新型コロナウイルスは中国からヨーロッパを経てより強い新種が世界中に患者が広がり経済活動も麻痺した。安倍政権は厚労省の専門者会議を前面に出し首相として陣頭指揮に立つことを逃げた。自身の犯罪モリ・カケ・桜を打ち消すために側近の黒川弘務氏を検事総長に据える企てで閣議決定まで行ったが国民の猛反発を招き頓挫してしまった。振り返ればこれまで黒川氏が拘わった事件はモリ・カケなど「不起訴」で首相を守った。だが、いつも「柳の下に泥鰌はいない」。読売新聞記者宅で賭博麻雀を繰り返してい

たことがバレ、辞任に追い込まれたがおとがめなしの無罪放免に等しい「訓告処分」だった。この処分に国民は納得していない。

休業要請(命令)と休業補償を切り離し、自己責任を押し付ける無責任な方針にも総反発を食らい誰でも国民一人「一律 10 万円支給」を決める事になった。利権がらみの「アベノマスク」も「10 万円」もまだ届いていないのに安倍首相は保身とお友達への思いやりが見え見えだ。コロナ禍のピンチを生かして政権交代のチャンスにしたい。

## 愛知健康センターは愛知労働局に対して申し入れ

コロナ禍の危険な中で医師・看護師・介護職員は懸命の奮闘をしている。最も罹患の多い職場である。ところが医療従事者がコロナに感染した場合、厚生労働省は当初、感染経路が不明だとして労災認定から外そうとした。

私たちはこの対応を知り直ちに要請書にまとめ5月1日の共同行動に愛知労働局に提出した。



厚労省は共同行動の直前(4/28)に労災申請を受け入れることに改めたが、5月18日現在、医療従事者の感染数は1000名に増えた。そのうち労災申請者は40名にとどまっている。そこで、再度(5月20日)労働局にたい

して、労災申請を積極的に呼びかけるお知らせ活動をメディア、チラシ、ポスターなどで広く準備して国民に知らせることを申し入れた。そして6月3日までに回答を求めた。

この要請行動にNHKが同行することを事前に伝えたが「報道は困る」という労働局の姿勢を当日、改めて交渉した結果、放映されることになった。

また、前日の5月19日に日本労働弁護団(秦一郎氏代表)も同趣旨の申し入れをおこなっていて時宜に適った行動となった。このような申し入れは変化する事態に即応することが改善・改革していくため貴重な経験となった。

今回の行動を通じて労働局とコロナ禍が収まった時に健康センターと懇談をおこなうことになった。

## ・「偏見・差別・排除・暴力の歴史的社会的縮図」としての 「新型コロナ禍社会現象」から 「新しい市民的社会的連帯」の視点・思想・言葉・ネットワーク の多彩な試みの向こうへ

小野政美 (愛知県退職教員)

### 偏見・差別・排除・暴力の歴史的社会的縮図としての新型コロナ禍社会現象

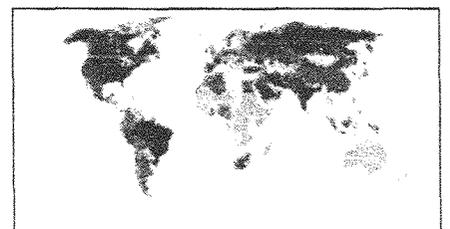
新型コロナパンデミックの現状は、私・たちに、今、何こそが必要かとラディカル(根源的)に、トータル(総体的)に問うている。日々変容するさまざまな現象・現場・世界を分析・総合できないのは、新型コロナパンデミックの世界と日本を総体的・構造的・歴史

的に見据える視点・思想・言葉が欠如しているからではないか。新型コロナ危機による「不平等な死」。「コロナ禍」、「アフターコロナ」とどれほど騒いでも、世界は新型パンデミックを超えることは決してできないだろう。

### 可視化される社会の分断

世界中がコロナ禍に苦しむ中、差別的、ヘイトスピーチ・ヘイトクライムが広がっている。ヨーロッパ・アメリカなどでアジア人が暴言を吐かれたり、危害を加えられたりする事件が発生し、日本でも3月に横浜中華街の

店に脅迫状が届くなど許されない



出来事が起きている。緊急時には不安をかきたてられ、差別意識が顕在化する。ヘイト行

為は社会を分断させる。ヘイトスピーチなどは国籍に関係することが多く、宅配業者の方が除菌スプレーをかけられたり、医療関係従事者が心ない対応をされたりなど、国籍と関係ない「差別」も広がっている。アメリカでは、犠牲者や重症者は、マジョリティー（多数派）の白人に比べ、マイノリティー（少数派）の黒人や南アジア出身者など移民とその子孫たちの割合が際立って高い。アフリカ系アメリカ人の新型コロナ感染は、ルイジアナ

## 「自粛ポリス」現象はファシズム構造

日本全国各地で起こっている感染者を暴力で脅したり、脅迫状を送りつけたり、ネット・SNSで攻撃したりするなどの「自粛ポリス」現象は、政府という権力・権威に従うことで「権威への服従」を前提に、自らが「小さな権力者」として抑制されていた攻撃衝動を発散し、「異端者」を差別・排除・攻撃する。「自粛ポリス」現象は、「ファシズム構造」であり、戦前の日本での「隣組」は、権力・警察・特高の権威を背景にした「壁に耳あり、障子に目あり」の民衆による「相互監視社会」であった。関東大震災時にデマによって行われた行政と民衆の一体となった朝鮮人虐殺をリアルに想起させる。パンデミックで平常よりも生命の危機に晒されている「社会的弱者」は、正当な補償からも排除され、「コロナ禍後」（「戦後」）にこそ、「新たな戦場」で、疾病・飢餓・暴力等とともに「自粛ポリス」による脅迫と暴力による死の恐怖に怯えながらコロナ禍終息後も、「新しい市民的社会連帯」のネットワークを模索しながら日常的な日々を生き延びる他ない。

コロナパンデミックの広がりの中、アメリカで起きている警察官による黒人男性ジョージ・フロイドさん殺害の事件以前から、警

## 日本社会の不寛容と新しいたたかい

新型コロナウイルスの流行を巡り、「感染は本人のせい」と捉える傾向が、欧米に比べ日本は突出して高いことも大阪大などの調査で分かった。日本は15・3%で本人に原

州で人口比33%、死亡率70%であり、ニューヨーク市での10万人当たりの死亡は、白人45.2人、黒人92.3人だった。ニューヨーク市では、テレワーク可能な人の職場が集中するマンハッタンの感染が激減する一方で、在宅勤務が不可能な人びとが多く住む地区や「ホームレス」の居住地域、日本では「新宿」など、での感染率が増加している。「テレワーク」が可能な仕事は、「弱者」の低賃金労働に支えられてしか成立しない。

警察官による人種的偏見と差別に基づいたアフリカ系住民に対する暴行と殺害、そして加害者の不処罰が繰り返されてきた。アメリカ社会・ヨーロッパ社会においては昔も今も、人種差別、とりわけ黒人に対する差別が根強く存在し、今回の事件のような悲劇を招いている。2014年、国連人種差別撤廃委員会ではアメリカ合衆国の定期審査においてマイノリティーに対する法執行官による過剰な力の行使への懸念を表明している。人種的偏見は差別を助長する大きな要因である。アメリカ・ヨーロッパなどにおけるその標的はアフリカ系住民に限られるものではなく、その他のマイノリティー、先住民族、移民にも向けられる。アメリカ・日本のみならず、各国ともにコロナ禍によって深く傷つき「自国優先」の不安定で不均衡な世界を形成しどの国でもさまざまな格差・不平等が拡大し、「国際協調や連帯」の名に巧みに隠されてきたいろいろな形の差別が顕在化した。コロナショックは、各国社会・国際社会に存在していた隠れ蓑を、半ば暴力的に強制的に引き剥がし、各国社会の問題を浮き彫りにし、社会・世界における構造的な分断が鮮明化した。



因を求める傾向が強い。アメリカは4・8%、イギリスでは3・5%だった。日本人は欧米人と比

較して「不運な目に遭うのは自業自得」と考えやすいとされており、新型コロナ感染者を責めたり、謝罪を求めたりする不寛容さとの関連も含めて、新自由主義による「自己責任論」も拡大深化している。新型コロナ感染者への嫌がらせや差別的な言動が日本各地で起きネット上では激しい誹謗中傷攻撃も行われた。コロナよりも恐ろしい「魔女狩り」や「全体主義」を蔓延させてはならない。

「このいまましい病気め。かかっている連中まで心は感染している」。アルベール・カミュの『ペスト』。自分や愛する人の命にある日突然病魔が襲いかかる。人々は「不条理」におののき、憤り、敗北感に苛まれる。小説の舞台は深刻な伝染病が発生したフランス植民地・アルジェリアの地方都市オラン。街は感染防止のため封鎖される。不気味な病と向き合う社会で「最初のうちの驚きは次第にパニックに変わっていった」。カミュは、ペスト禍が終わることを待つばかりに見えるオランの街を「待合室」に例えたが、主人公のリユウ医師は増え続ける犠牲者の数に打ちのめされながらも睡眠時間を4時間に削り闘い続ける。市民たちはボランティア部隊を組織し予防などの活動に乗り出す。そこに参加した市の職員は、疲労にもめげず役所の仕事に加え疫学的データ集めに力を注ぐ。リユウ医師は新聞記者との会話で、自分たちがやっていることは「英雄的行為」ではないという。「笑われる考え方かもしれないが、ペストに対するただひとつの闘い方は誠実

さです」。誠実さとはと問われて、不条理に抵抗する強い意志で、リユウは静かに答える。「自分の職務を果たすということだと思っています」。

新型コロナ禍による偏見・差別・排除・暴力の多くの具体例、政府・行政による権力的差別偏見排除の構造を背景にした、「新型コロナ禍現象」による偏見・差別・排除・暴力の歴史的社会的分析、及び「新しい市民的社会連帯」の視点・思想・言葉・ネットワークの試みについては、字数の関係で別稿に譲らざるを得ない。

アメリカでのジョージ・フロイドさん殺害事件後の、警察官による人種的偏見と差別に対する、アメリカ全国、ヨーロッパ・世界に広がっているアフリカ系のみならず、「人種」・国家・民族などを超えた闘いは、「新しい市民的社会連帯」の視点・思想・言葉・ネットワークの試みである。また、香港民衆の持続する闘いもまた「新しい市民的社会連帯」の希望の闘いの萌芽に違いないだろう。さまざまな現場で、自立した個人・労働者・市民として、いまこそ、「全体主義体制」・「相互監視社会体制」・新ファシズムに対抗する「新しい市民的社会連帯」の視点・思想・言葉・ネットワークを果敢に試みるからこそ、私・たちに望まれているのではないだろうか。

(後半「新しい市民的社会連帯」の視点は次号にて掲載します。)

## 近藤進さん安らかに

7月18日(土) 15時から労働会館にてしのぶ会を持ちます。親交のあった方おいでください。

近森 泰彦

年明けの1月4日、電話するも返答がなくその後も不通。関係者に尋ねるもわからない。建交労愛知県本部に勤め先は「名古屋コンテナ」聞き電話し「9日から欠勤」と聞く。建交労から健康センター鈴木明男さんに「10日に警察が部屋に入り死亡確認」と連絡。15日午後、アパートを探しあてノックするも不在。ドアポストは新聞、手紙など3~4日分がぎっしり。生前「実兄が川本ポンプに勤務」と聞いていたので、JMITUの川本ポンプOB早川さんに調査を頼むが不詳。17日18時過ぎ車に

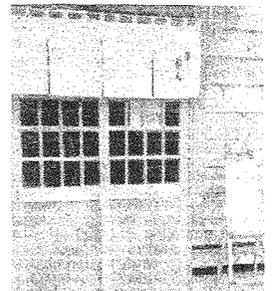


乗り合わせて（竹久、柿山、近森）再度アパートを訪ねた。

住人の男性「10日、警察の方が大勢来ていた」と話す。

アパート管理会社に電話するも時間外で不通。中川警察署に向かい窓口担当者に「親族への連絡はついたか否か」を訊ねた。

23日、管理会社から「近藤さんは現在も契約中」と返事。30日、中川区役所「個人情報なのでお話できない、役所としては住民票から抹消するという事しか言えない」と担当。2月5日夜、中川警察署刑事課から「親族との連絡だけです」と再確認あり。直後、実弟から電話くる。2月6日、「セレモニー白壁」（清大町）で簡素（寂しい）葬儀、（僧侶の読経のみ）に参列（実弟、実姉、吉川、竹久、近森の5人）。「部屋の片づけは専門業者に依頼」した何か御入用は？と弟さん。彼の写真をお願いした。健康センター、ユニオン市民の会、関西生コン東海の会で短いお付き合いで終わってしまった。お酒好き、「居酒屋楽人」（主：大場さん）で一献傾けることが楽しみだった。いつもあの笑顔に癒された。享年69歳。合掌



（写真は近藤さんと一緒に通った居酒屋）

## 私の注目するアメリカ：AOC現象と呼ばれている

### 「アメリカの若き女性下院議員

#### アレクサンドリア（A）・オカシオ（O）・コルテス（C） 伝説のエピソード」



アメリカはいま、サンダースの後継者を待たようだ。30歳の理知的な女性。ボストン大学の高い学費ローン返済のためにウエイトレスやバーテンダーをしていた。地

元ブロンクス、移民家庭出身。彼女はオバマの選挙でもサンダースの選挙でも活動している。師匠はサンダースだ。サンダースと同じデモクラティックソーシャリスト、つまり民主的社会主義者だと名乗っている。社会主義を具体的に？との質問に、国民皆保険だ、誰もが無償で高等教育を受けれる社会だと、歯切れがいい。

そして、グリーン・ニュー・ディールを高く掲げる。これは、グレッタさんと同じ、気候

変動を自分の時代の問題として真面目に考えるこれからの世代の代表として、自分が生きる時代に社会を変えたいと言う。グレッタさんが代表する若い世代が共有するのは、生き方を変えなければ、生き残れないかもしれないという危機感。AOCが世に出たのは衝撃の番狂わせになった予備選挙だ。若干28歳、プエルトリコ系の女性が、2018年6月26日ニューヨーク州第14区下院議員の民主党予備選挙で、当然現職がいた。ニューヨーク州議会からのたたき上げで10期連続当選で20年下院議員を務めナンシー・ペロシーの後継者として将来の下院議長候補の一人であったという現職クローリー氏を破った。それは事前の予想を覆す驚きの事件だった。しかし今では、AOCは一つの希望だ。彼女の話す姿をユーチューブで見ることができる。すごく魅力的です。（たかだ）

\*ウィキペディア引用(写真も) 「ノーム・チョムスキーはAOCの勝利を『眼を見張るような、そしてとても重要な出来事だ』と述べている。AOCの勝利は民主党の分裂を示すものとするチョムスキーは『AOCが示した政治現象は、非常に幅広い層に訴求力があると見るのが正当である』と述べている」

# なぜ、女性だけのユニオン、なのか・・・

女性ユニオン名古屋 副委員長 石田 好江

ユニオンの側から「ユニオンと連帯する市民の会」との関係を見ると、市民運動や社会運動と連携したユニオン、すなわち労働組合の経済的機能より社会的機能を重視したソーシャル・ユニオンニズム(社会運動系労働組合運動)ということになります。その中でも女性、青年、中高年管理職など特定のアイデンティティを基礎にしたユニオンは、社会の変革など組合の社会的機能をより重視した組織といえそうです。今回『結』の編集長から紙面をいただきましたので、女性ユニオンとは何か、その果たす役割はどこにあるかなどを書かせていただきました。



## 女性だけの労働組合

私の所属する女性ユニオン名古屋は、2007年に女性差別裁判や労災認定運動の当事者女性たちを中心に設立された、女性だけの労働組合です(私もその立ち上げのメンバーのひとり)。当時、女性だけの労働組合は既に全国に7つ誕生していました。このさきがけ

は、第二派フェミニズムの影響を受けてアメリカで設立された「9 to 5」(1973年設立の労働組合で、映画にもなりました)で、日本の女性たちもこの活動から多くのものを学びました。

## 既存の労働組合の限界、女性差別への無関心

では、なぜ、女性だけの労働組合が必要になったのかですが、第1の理由は、既存の労働組合が働く場における女性差別に無関心、あるいは軽視の傾向にあったからです。これは労働組合の問題というより、社会そのものが男性中心、女性は周縁的・補助的という構造(ジェンダー秩序)になっていることに起因しています。なかでも、90年代から顕在化してきた(可視化されるようになった)セクシュアル・ハラスメントに対して既存の労働組合が無理解であったことが女性だけのユニオンの必要性を高める大きな要因になったといえます。

第2は、労働組合組織に存在するマスキュリニティ(男性性)という文化の問題です。労働組合はヒエラルキー構造であり、そのことがとりわけ言説資源の乏しい組合員(差別を受けていたり、ハラスメントで傷ついている

ような者)にとっては抑圧的に作用します。また、労働組合特有の活動スタイルも家事・育児負担を抱える女性には苦痛になっていました。

第3は、アンペイドワーク(家事・育児・介護等)への労働組合の無理解です。このことは、出産などで仕事を辞め、再就職した女性への男性組合員からの低い評価(主婦パートと男性独身非正規への対応の違い)や家事・育児と仕事との両立を女性の問題としてしか理解しないといったところに表れます。このように、既存の労働組合に対して感じた限界から、労働者の問題をジェンダーに敏感な視点で捉え、フラットな組織の中で、女性自身がその問題の主体となって解決するような、女性だけのユニオンをつくる機運が高まりました

## 相談者が自信を回復すること & 社会運動と労働運動の架け橋に

女性ユニオンの活動の中心は、相談を受け、当山者の問題解決を支援すること、もうひとつは女性運動や労働運動などの社会運動とのネットワークです。前者では支援を通じて、当事者が問題解決の主体となることで自己変革し、自信を取り戻し、社会への意識や視点を獲得していくことを目指しています。女性ユニオンの相談の中心を占めているのは、セクハラ・パワハラなどのハラスメントですが(解雇や労働条件の不利益変更などでも、性差別やジェンダー・ハラスメントが絡んでいることが多い)、多くの相談者が「セクハラを受けたのは自分にも責任がある」「解雇されたのは、会社の中で男性のように重要な

仕事をしていないのだから仕方ない」と自尊感情が低い状態で相談に訪れます。そうした相談者も、同じ経験を持つ同性から丁寧に話を聴いてもらえたことで縛られていた「自己責任」感情を解きほぐし、さらに自分の言葉でハラスメントの相手方に思いを主張することで自信を回復することが可能になります。後者の活動を通じては、ジェンダー平等の問題を労働運動に位置づけるという女性運動と労働運動を架橋する役割を女性ユニオンが担っています。また、多様な運動と連携することで、近代の労働観を見直し、すべての労働者にとって働きやすい社会にすることを目指しています。

## インターセクショナリティも課題の一つ

ただ、女性ユニオンのこうした特質が逆に弱点(課題)にもなっています。個別問題の解決力はあるが、組織化や職場を改善する力が弱いのは事実です。もうひとつの課題は、交差性(インターセクショナリティ)を意識した活動の必要性です。ジェンダーの主流化(政策によってジェンダー平等が進められた)の結果、男性とかわらない地位につく「成功した」女性が増える一方で、低賃金・不安定な仕事に従事する女性が増加し、女性の二

極化が進みつつあります。また、人種、エスニシティ、セクシャリティ等によってジェンダーだけでなく複合的な抑圧を受けることも明らかになっています。女性ユニオンにおいても、女性内部における差異を意識した活動が求められているといえます。

### 告知欄

## 石田さんのお話を企画しています

### 第72回ユニオン学校

「ジェンダー平等運動のいまをどう考えるか」

お話 石田好江さん(愛知淑徳大学名誉教授・女性ユニオン名古屋副委員長)

日時: 7月31日(金) 18時～

場所: 金山「労働会館本館: 本館第5会議室」

(熱田区沢下町9-3)

お問い合わせは 070-1619-6435 (高田)

働き方や地域の暮らし、アジアの運筆を学び合う

## 第72回ユニオン学校

開催～

みんなで作るユニオン学校。どなたでも参加できます。運営に力を貸してください。

### ジェンダー平等運動の いまをどう考えるか

お話 石田好江さん  
(愛知淑徳大学名誉教授・女性ユニオン名古屋副委員長)

日時: 2020年7月31日(金) 18時～

場所: 労働会館本館: 本館第5会議室 (会場カンパ: 500円ほど)

住所: 愛知県金山(熱田区)沢下町9-3  
※地図・車両案内

主催: ユニオンと連携する市民の会  
連絡先: 070-1619-6435(高田) 050-4235-3662(高田)

---

ジェンダー平等運動を提唱してきた私たち労働者層の男性化に戸惑っている時に、イクメンや男たる親権法という形で男のモデルが政策的に奨励された。ファッション雑誌にフェミニズムが取り上げられたりという従来の産物なバックグラウンドとは異なる現象が起きている。

この状況をどう捉える(強制的にはネオリベ・ジェンダー平等と捉えることができます)。ネオリベによる急激な対峙しながらとのように運筆をつくっていくかを一緒に考えてみたいと思います。

また、参加費をまったく、御金をいただきませんでしたので「ジェンダー平等とは何か」のいろいろそれぞれのところから話をさせていたただけたらと感えています。

# 総会報告

## 「ユニオンと連帯する市民の会」第13回総会

日時：2019年3月31日(日)13時30分～15時00分

ところ 労働会館 本館 第1会議室



### 代表挨拶（近森）

- ・「コロナ」の下労働者の置かれている状況、特措法など。
- ・「関生東海の会（略称）」結成と取り組み。会の今後の役割。
- ・『企業福祉と日本的システム』（櫻井著）の紹介。

### 1. 活動報告

#### （1）ユニオン学校（松本）

2019年度は第63回ユニオン学校～第70回ユニオン学校を開催、全8回。テーマは多様。様々な労働問題と、フェアトレードのお話やセクシャルマイノリティー（性的少数者）の運動をテーマにした映画鑑賞を行いました。

#### （2）機関誌『結』（植木）

本年度の編集方針として「ユニオンの闘いと将来のユニオン運動の姿」を掲げました。現在のユニオンの闘いについては、多様な闘いを紹介しきれなかったと反省しています。

#### （3）ユニ懇（近森）

2019年3月31日市民の会総会後の懇話会にて関西生コン問題をとりあげ合意。その後市民組織の人々と準備会を重ねて「関西生コン労組つぶしの弾圧を許さない東海の会」を結成・総会を6月29日に成功裏に行った。

#### （4）街頭宣伝（松本）

2017年6月まで行っていたユニオン共同行動による「ユニオン連帯ニュース」の街宣をユニオンと連帯する市民の会の主催で再開しました。「連帯ニュース」は各ユニオンの闘いと成果を紹介しています。

#### （5）連帯・共同（木村）

愛知の野党共闘は、立憲民主とはうまくいっている。国民民主を含めての野党共闘に向けて協力していく。

#### （6）会計・会員及び会計監査報告（牧野） （小林）

報告して、承認していただいた。

### 2. 活動方針

#### （1）ユニオン学校（木村）（松本）

今期もユニオン学校は原則月1回開催をめざしますがコロナウィルスの問題のため中止していましたが、労働者、市民の学習と交流の場をめざして開催していきます。（年間スケジュールを決めていきたい。）

#### （2）『結』（たかだ）

ジェンダーの視点を『結』に反映して4回/年発行していく。

#### （3）ユニ懇（近森）

労働運動、市民運動に対する監視・弾圧が強められるなか労働組合（ユニオン）組合員、未組織労働者、市民運動活動者、議員・個人、有志などに呼びかけ幅広い共同づくりの場を設ける。ジェンダー、外国人労働者、若者問題（ユースユニオン支援）など話し合いを通じて共通の認識づくり、人間関係を深める場づくりをめざす。

地域ユニオンとの連携を具体化的な課題で進める。

#### (4) 街頭宣伝(松本)

「ユニオン連帯ニュース」の街宣を月1回、場所を金山駅前で行う予定。

目的はユニオン＝労働組合の存在を広く周知し、ユニオンへの加入を促進することです。

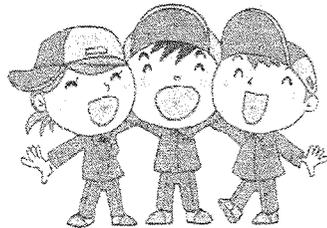
「連帯ニュース」を通じてユニオンの組織拡大をめざすとともに各ユニオンの共同行動と交流の場としての街宣を行います。

#### (5) 地域連帯・共同(松本)

ユニオン、健康センター、市民運動など諸団体との共同行動を広げて未組織労働者にユニオン加入を呼びかける。

#### (6) 交流・学習(花柳)(櫻井)

ユニオンで活動する若者数名で、資本論学習会を行いました。市民の会でも勉強会を開いてはどうかと言う案があり、勉強会を通してベテラン活動家と、次世代を担う方々との交流を図っていきたくと考えています。



#### 総会で出された意見

- ・メーリングリストが無くなっている。再度できないか。  
⇒グーグルで復活させた。
- ・関西生コンのように組合潰しが進んでいる。ATUが作られた時のようにサポートする会が必要である。組合潰しを許さないよう支援していきたく。
- ・国鉄の分割民営化で国労がその救済運動に力を割いたため、大きな後退をした。今後、若い活動家を作っている必要がある。
- ・労働組合では、次世代の人を作ることが大切になってきている。
- ・アメリカでは、労働運動の周辺組織との協力が組合運動を強める力になっている。若い人を運動に引き込んでいく必要がある。
- ・ツイッターでは、女性車両反対として女性車両に乗り込む男性が発信しているなど

理解できない人もいる。

- ・過去の活動家が定年後に運動に参加する割合は少ない。過去の活動家に依存する活動は限界がある。
- ・現在の社会状況では、製造業は潰されていく。企業合併等が進むため、それに対応する運動が必要になる。
- ・今のコロナ騒動で、個人商店は深刻な打撃をこうむる。まじめに働いている個人商店ほど打撃は大きく、経営はやっていけなくなる。
- ・コロナ問題は、リーマンショック以来の不況になる。コミュニティユニオンではホットラインで相談に取り組んでいく。愛知、三重、静岡で相談を受けていく。労働弁護団でコロナでの労働問題Q&Aが出されているので参考にしてもらいたい。
- ・個人加盟のユニオンでは、個人の問題が大切である。コロナで内定取り消しが発生する等企业が個人の犠牲で乗り切ることを許してはいけない。
- ・ユニオン学校は自主的に学ぶ組織です。運動につながることをやっていきたく。
- ・愛知では、トヨタの動向が大きな位置づけを持っているため、積極的に発信していく。
- ・現在のコロナ問題では、障がい者に大きな影響が出てくる。組合と協力して交渉をしているが「栄総行動」小さくなっている現状では、運動が不十分になってしまう。

#### まとめ

(柿山)：個人加盟の組合(ユニオン)は、決してじり貧状態ではありません。企業内組合が大幅に力をなくしている状況の中、自律的で強い組合として進んでいます。議案書の「ユニオンと連帯する市民の会」略歴の中で、故・杉山直さんが「木下武男さんは越境の思想と呼んでいましたが、多くの団体・個人が「境」を越えて参加できる組織へと発展させなければなりません。

せん」とまとめていただきましたが労働運動は、将来の多数者になります。

(近森)：「ATUをサポートする市民の会」から「ユニオンと連帯する市民の会」へ発展してきました。私の責任として、次世代の人を作っていく必要があります。現在物作りが崩壊し、1%の人が世界の半分の資産を独占している異常な金融資本

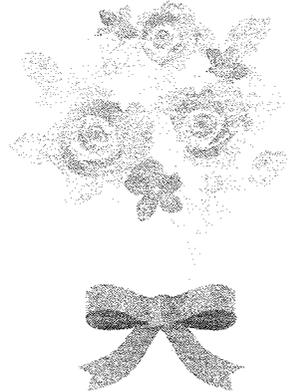
主義が進む中、このような制度をどのように正すのか、我々の対応が問われてきています。現在の資本主義のシステムをどのように変えて暮らしを守るのか一緒に考えていきたい。

### 3. 役員提案 (植木)

提案通り承認されました。(下記の通り)

#### 【2020 年度役員】

- \* 相談役 猿田正機(中京大学名誉教授)、中谷雄二(弁護士)  
古木民夫(東海ジャーナリスト会議代表)
- \* 代表 近森泰彦(NPO愛知健康センター)
- \* 副代表 柿山朗(海員組合OB、元海技大学校客員教授)
- \* 運営委員会 事務局長代行・櫻井善行(定時制高校非常勤講師)  
同 次長・松本 朗(ユニオン学校事務局長)  
同 次長・木村直樹(メディア夜塾幹事)  
牧野三枝子(元、全国金融産業労働組合委員長)  
鈴木明男(NPO愛知健康センター事務局長)  
竹久憲一郎(シティユニオン委員長)、植木日出男(愛知争議団事務局長)  
中村一三(ATU書記長)、鶴丸周一郎(名古屋ふれあいユニオン委員長)  
小野政美(元教員)、たかだ洋子(ジェンダー関心市民)  
新任・花柳志保(名古屋ふれあいユニオン)、大場一哉(居酒屋楽人店主)  
水野桂(東海民衆センター)
- \* 会計 牧野三枝子
- \* 会計監査 小林収(司法書士)
- \* オブザーバー(代表又は事務局長の了承のもと会議等に参加していただく)  
・今後役員会に提案していく。



注記:若い方、女性の方に加わっていただくよう努める。  
年度途中の就任、退任は総会で報告し承認を得る。

#### その他

##### ◎運営委員会について、下記のようにします。

- ・運営委員会を毎月、日程を決め定例化する  
原則は、第一週の火曜日の18時30分～20時30分
- ・内部ニュース(メールニュース)の発行
- ・継続的なミニ学習会
- ・SNSの活用

# 共謀罪と労働運動（四）

木村直樹

かつて運輸一般関西生コン支部の運動に対して、業界紙「セメント新聞」は「工業組合と労働組合が提携をして独占への闘いを挑んでいる。これは人民公社的な運動だ。この闘いを放置してはならないし、「箱根の山を越す」ようなことをさせてはならない」とキャンペーンを張ったが、「関生型運動」は拡がり谷建材闘争から中部地区生コン支部結成へ、そして静岡、東京へと越えていった。

東京では、1980年9月25日から121か所の捜索をうけ逮捕者は43人に上り、1982年6月16日の鈴木生コン事件（板橋区）に関連して捜索を受け、威力業務妨害で4人が起訴された。11月26日に中央本部が横山生コン事件に関連して捜索をうけ、12月11日には東京地本が捜索された。当初は「不当捜査だ」としていた引間博愛委員長も荒堀広共産党労働局長（自治体局長、国民運動委員会責任者、常任幹部会員、2014年以降解任）に従って、「声明」（「赤旗」1982年12月17日）を出し、関生支部をほのめかして「一部の下部組織の社会的階級的道義に反する誤り」とした。12月10日には『日本共産党の60年』が発行されたばかり、12月14日には全民労協が結成され、対抗する統一労組懇の最中で、この弾圧が共産党と運動に打撃になると判断されたのだろうが、不当な国策捜査との闘いの放棄は運動に亀裂をつくった。

山田善二郎氏も「労働組合の正当な権利である団体行動権を行使したことに対して、警察当局が、周到に計画したうえで、真向から攻撃を挑んできた事件です。しかもこれが現在、日本の労働運動を右傾化する一連の動きのなかで、階級的立場を堅持してたたかっている運輸一般と、運輸一般が中心組合のひとつとなっている統一労組懇の破壊を目的として企まれた」（「救援新聞」1983年10月5日）とした。

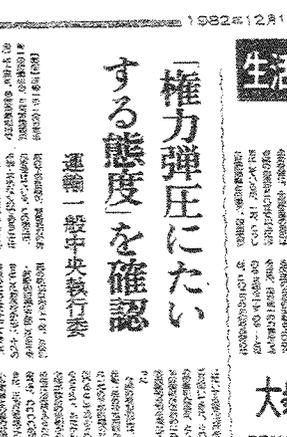
日本共産党は1979年10月の衆議院総選挙で史上最高の41議席（革新共同を含む）を

獲得して、民主連合政府の可能性が出たが、翌年の衆参同日選挙で衆議院は29議席、参議院は4議席失って12議席と後退した。運輸一般への弾圧はこの後退面で起きた。

1982年7月の第16回大会で宮本顕治幹部会委員長は中央委員会議長に不破哲三中央委員会書記局長は幹部会委員長と新しい体制下のことであった。かつて労働者階級に強い基盤をもっていた大阪で、近年、共産党は議席を確保するのが難しくなってきた、野党共闘が成立しても、立憲民主党や社民党の国会議員の幾人もが関西生コン支部と関係をもち、この件で共産党に気遣っている状況もある。総がかり行動の共同代表で野党共闘や革新懇に協力する福山真劫氏は全日建連帯関西生コン支部への弾圧を許さない。

共産党と建交労は早急にこれまでの経緯を知る必要がある。でないと野党共闘が本腰にならない。私は秘密法と共謀罪に反対する愛知の会の世話人、野党共闘を進め、革新懇

に賛同し、治安維持法国防同盟（愛知）の常任理事でもあるが、「関西生コン支部を支持するか支持しない」ではなく、現代の治安維持法である「共謀罪」の観点から大津、大阪、京都の裁判傍聴を続けている。「どこが違法で犯罪か」とい

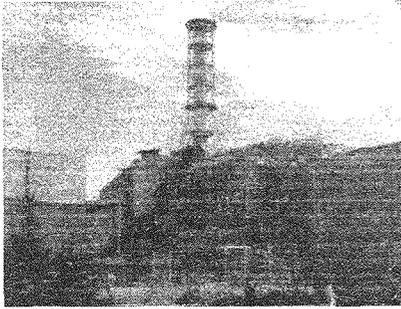


う私の感想は、吉田美喜夫立命館元総長（労働法）が5月25日の武委員長、湯川副委員長勾留解除要請行動の記者会見で「二年もかけて本件の真相解明が出来ていないのは、公訴事実が「事実」でないからだ」と語られたことに通底する。現在、荒堀広氏に対する評価（社会的道義的違反・・・）が共産党幹部だけに共有されている。原則的な労働運動と産業政策を不屈にやる元共産党員の武健一関西生コン支部委員長と対比される。

## ユニオン学校

# 河田昌東さん「原発のない社会をめざして」報告を聞いて

6月27日(土)の夜、労働会館において河田昌東氏(チェルノブイリ救援中部)を招いて第71回ユニオン学校が行われました。チェルノブイリ原発事故から30有余年、フクシマ原発事故から9年の経過ですが、私たちの周囲での風化は否定しようがありません。そうした中で、放射線等の専門家でもあり、住民目線でチェルノブイリからフクシマを結び、原発のない社会を目指してなされてきた様々な活動の紹介に参加者一同聞きながら聞きいりました。河田氏の活動の原点は、60年安保にあり当時在籍していた大学の先生から「1週間自分の頭で考え



櫻井 善行(市民の会事務局長代行)と言われたことが契機だそうです。理系出身者でも様々な社会問題に関わるようになったのもうなずけます。被爆地チェルノブイリでの菜の花を利用した国土再生は、ウクライナとロシアとの紛争を理由とした財政難から挫折しましたが、フクシマの南相馬の地での菜の花プロジェクトを行政も囲みながら、「共生の大地」のモデルを形成した経験も紹介していただきました。見知らぬ土地で地元の人々の共感を獲得し、支援者とともに協同の開拓者を作り出してきたことも理解できました。お話が終わった後も、原発問題だけでなく、種子法やコロナ禍についての質疑・やりとりが行われました。時間の制約もあり、お話もあっという間に終わりました。また機会を見つけて、テーマを絞りこんだお話も聞きたいと思いました。

## 編集後記

新型コロナのために、今年はメーデーも集まれず、5月3日の憲法記念日の集会も中止、皆が集まって学び合う場、活動への方針を確認する場所が失われ、生活や営業への直撃とともに恐ろしいことになっています。ユニオンと連帯する市民の会はマスクをして窓を開いて、人々は距離を保ちながら、なんとか総会を開催できました。そして今年の『結』はジェンダーに関心を持って編集していこうと確認しました。週刊金曜日に連載されている廣瀬純氏によれば、世界のフェミニズムの現段階は性暴力とのたたかひの局面であるそうです。その性暴力の激しさは新自由主義がもたらす男性労働者への抑圧と無関係ではないと分析されています。キャリア女性と主婦パート、非正規あるいは派遣労働者と正規雇用労働者、男女、夫婦、外国人労働者も仲間に、対立ではなく連帯できる道を探しながらこの一年、編集していきたい。(洋)

### ■ □ 事務局連絡先 □ ■

〒456-0006

名古屋市熱田区沢下町9-3

労働会館本館306号 健康センター内

Tel&(fax): 052-883-6966(6983)

メール: sfl7wtq@tg.commufa.jp

### ユニオンと連帯する市民の会

お願い! 原稿、感想、情報、意見をお寄せ下さい。

1部 100円

本年度の会費・カンパ  
の振込をお願いします

振込先

郵便振込

口座番号: 00820-7-169123